

- 本県のなし産地は、**高樹齡化**や**萎縮病**による**生産性の低下**が課題。
- なし園の安定経営や産地の継続的な発展には、**老木樹の改植や新植が必要不可欠**であることから、**改植**と同時に**優良品種の導入**に取り組んだ。
- **早期成園化技術を活用した優良品種への新植・改植**が進んだ。

具体的な成果

農業革新支援専門員の活動

1 新植と改植の推進

■ **早期成園化技術を活用**した新植、改植を推進。

〈技術別の導入面積〉

- ① **樹体ジョイント仕立て栽培** 0.3ha
- ② **埼玉式早期成園化技術** 11.2ha

2 優良品種の導入推進

■ 豊水、新高に替わる収益性の高い優良品種の導入を推進。

〈品種別の新規導入面積〉

- ① **彩玉** 5.8ha
- ② **あきづき** 1.9ha
- ③ **甘太** 1.3ha

3 白紋羽病対策を同時推進

■ 罹病樹の治療や改植後の対策を実施

- ① **定植前の高温水処理**
 - ② **フルアジナム水和剤の土壌灌注**
 - ③ **微生物資材処理**
- この組合せで**発病を抑制**

平成29～令和3年度

- 埼玉県果実連合会、埼玉県梨経営研究会を対象に**研修会を開催**。
- 普及指導員と連携し**早期成園化技術の巡回指導**を実施。
- **優良品種**の導入を推進。

平成29～令和元年度

- 白紋羽病対策として、**温水による罹病樹の治療**を現地実証

令和元年度

- **「あきづき」の果肉障害対策マニュアル**を配布
- **「甘太」のカラーチャート**を作成、配布

令和2～3年度

- **彩玉栽培の手引き、甘太栽培指針**を作成、配布
- 白紋羽病対策を現地実証
 - ① **定植前の高温水処理**＋②**フルアジナム水和剤の土壌灌注**＋③**微生物資材処理**

農業革新支援専門員だからできたこと

- **県全体を担当**する立場にあることから、**県域組織を対象**に研修会や技術指導ができた。
- **早期成園化技術の専門的知見**を活かし、**普及指導員の指導**を兼ねて巡回指導を行った。
- **広域性**を活かし、**農研機構や近県が取り組んでいる白紋羽病対策を情報収集**し、活用することができた。



甘太のモデル樹

埼玉県

改植と優良品種導入によるなし産地の活性化

活動期間：平成 29 年度～（継続中）

1. 取組の背景

本県では、昭和 40 年代を中心に、なしの新植が進み、「幸水」、「豊水」、「新高」を中心とする産地が形成されてきた。

しかし、植栽から 40 年以上が経過しており、高樹齢化や萎縮病による生産性の低下が課題となっていた。

なし園の安定経営や産地の継続的な発展には、老木樹の改植や新植が必要不可欠であることから、改植と同時に有利販売が可能な優良品種の導入に取り組むこととした。

2. 活動内容（詳細）

（1）新植と改植の推進

新植・改植には、初期投資の早期回収や、一次的な収量低下の対策が必要である。このため、苗木の定植後 3 年目には、収穫が可能となるよう、神奈川県が開発した「樹体ジョイント仕立て栽培」や、本県の篤農家が考案した管理により 4 本主枝を早期に完成させる「埼玉式早期成園化技術」の導入を推進した。

推進に当たっては、県域のなし生産者組織である埼玉県果実連合会や担い手組織である埼玉県梨経営研究会を対象に研修会を開催したほか、産地を担当する普及指導員とともに生産者を巡回指導し、技術指導を行った。

また、改植後、苗木に白紋羽病が発生する事例が非常に多いことから、定植前の高温水処理とフルアジナム水和剤の土壌灌注処理に加え、微生物資材の処理を組み合わせた防除方法を現地実証し、情報発信した。

（2）優良新品種の導入推進

近年の気候変動に伴い、これまでの主力品種であった「豊水」や「新高」の果肉障害が多く見られるようになった。

こうしたことから、これらの品種に替えて本県が育成した「彩玉」、農研機構が育成した「あきづき」や「甘太」の導入を推進した。

「彩玉」については、年 3 回、試験場において栽培講習会を開催し、最終摘果、適期収穫、せん定など、重要な技術を生産者に伝え、高品質果実が生産できるよう努めた。

また、各品種の栽培マニュアルを作成し、普及指導員を通じて県内の生産者に広く配布したほか、埼玉県果実連合会や埼玉県梨経営研究会の研修会において情報提供を行った。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 新植と改植の推進

早期成園化技術の活用による新植・改植の面積は、11.5ha となった。

技術別の面積は、「樹体ジョイント仕立て栽培」0.3ha、「埼玉式早期成

園化技術」11.2ha となっている。

「樹体ジョイント仕立て栽培」は、苗木を多く必要とすることに加え、神奈川県への許諾料が発生することから、「埼玉式早期成園化技術」の導入を選択する生産者が増加する結果となった。

(2) 優良品種の導入推進

「彩玉」、「あきづき」、「甘太」の新規導入面積は、9.0ha（令和3年度末）となった。

品種別の新規導入面積は、「彩玉」5.8ha、「あきづき」1.9ha、「甘太」1.3ha となっている。

近年、知名度が上がり、収量も多く高単価で販売できる「彩玉」の導入が増えた。高糖度の晩生種である「甘太」も導入が進んだ。



ジョイント栽培巡回指導



「埼玉式」で育成した甘太



彩玉栽培講習会（適期収穫）



作成・配布した栽培マニュアル

4. 農家等からの評価・コメント

(K市O氏)

お客様の注文量に「幸水」が足りない状況である。生産面積を増やしたい。ジョイント栽培であれば、パートさんに作業を頼める。白紋羽病には先代から悩まされてきた。微生物資材に期待している。

(K市W氏)

「彩玉」は人気がある。「甘太」を大玉にして特選品を販売したら好評だった。儲かる品種はもっと増やしたい。早期成園化技術は、ジョイント栽培と埼玉式の両方を導入した。早く収穫したい。

(S市E氏、S市K氏)

これまで、改植するたびに白紋羽病で樹が枯れてしまったが、微生物資材を使用したところは枯れていない。(両氏は自ら微生物資材を購入し、施用を始めた。)

(K市O氏)

ジョイント栽培は、作業の動線が単純でよいと思う。素人でも作業できそう。なし生産者が近隣にいないので、一年でも早く収穫したい。すでに周囲のお客さんから注目されている。

5. 普及指導員のコメント

(埼玉県農業技術研究センター農業革新支援担当・部長・遠藤紀浩)

本県のなし産地は、消費地に隣接しているため、多くの生産者が生産直売を行っており、消費者も高品質のなしを求めている。

近年、気候変動の影響から、他県の主産地において作柄が不良となることも度々あり、こうした場合、気象災害が少なく、作柄が比較的安定している本県のなしを求める消費者や市場関係者が多くなる。

一方で、本県のなし産地は、生産者の高齢化やなしの高樹齢化により生産量が十分に確保されているとはいえない状況である。

潜在的な消費量に生産が追い付いていないことは明らかであることから、これからも引き続き、なし産地の生産を向上させる取組を続けていきたい。

6. 現状・今後の展開等

新植・改植を行う際は、白紋羽病対策を避けて通ることはできない。

白紋羽病は難防除病害であるが、定植前の高温水処理とフルアジナム水和剤の土壌灌注処理に加え、微生物資材の処理を組み合わせた防除方法により、発病を抑える可能性があることから、さらに検討を重ねていきたい。

また、秋冬期の温暖化が原因とされる幸水の芽枯れや枝枯れが関東以南のなし産地で問題となっている。この問題は、施肥体系の見直しにより、改善が期待できることから、本県においても、施肥の見直しに取り組んでいきたい。